

患者さんが、自分ができないと諦めていたことを一緒に行い、「うわー、できた」と笑顔を見せてくださった時、とれもうれしく感じます。

広島市医師会運営・安芸市民病院

主任看護師

緩和ケア認定看護師

合野由美 さん

医療専門課程31回生



看護師になりたいと思ったきっかけ

高校卒業後の進路を決める時、将来は人と関わる仕事に就き、なにか自分の力を発揮できる職業をと考え、看護師でがんばってみようと思ったのがきっかけでした。

本校で学べて良かったと思うこと

病院で働きながら学校に通っていたので、学校で習う授業と病院での実践が結びつきやすかったです。

また、講師の先生も現場で働いておられる方が来られていて、実際にあった自分の経験談を交えて授業をしてくださり、学びが多かったなと思っています。

在学中の一番の思い出

私は在学中、出産をしました。「学校を辞めないといけないのかな…」と思っていたのですが、先生に相談したところ、「休学という選択肢もあるよ」と真剣に相談にのってくださり、1年休学をして復学という道が選べました。

あの時のアドバイスがなかったら、今の私はなかったかもしれないと思います。学業以外のことでもとても親身になってくださったことが一番思い出になっています。

現在の仕事内容

緩和ケア病棟で勤務をしています。受け持っている患者さんのケアが一番メインの仕事です。その他、主任としてスタッフ間の調整や患者さんと会話する時間をつくって話を聞き、それをスタッフに繋げています。

患者さんと一対一で行う看護と、カンファレンスを開催するなど全体的なところも見ながら行う仕事をしています。

看護を行ううえで、心がけていること

「患者さん中心の看護」は常に心がけています。緩和ケア病棟なので、「その人らしさ」を大切にしながら支えていくのですが、「じゃあ、それって何？」と考えた時、自分たちが患者さんに対して「何かした」という自己満足で終わってはいけないと思っています。

「患者さんが何をしたいと思っているのか」ということを必ず対話をして一緒に考えていき、その結果がどうだかも必ず聞くようにしています。

緩和ケア病棟では終末期の患者さんに関わる機会が多く、私たちが介入していく場面も増していきます。ですが、介入することで患者さんは「自分の存在意義」というものが薄れてきてしまい、辛い思いをされたりもします。できないながらも、「じゃあ、何できるのか？」ということをしっかりと考えていくことを常に心がけて仕事をしています。

看護師としてやりがいを感じる時

それはもう、毎日です。この病棟に来て14年が経ちますが、患者さんの病名は同じであっても、一人ひとり症状が違ったり、希望されることも違います。未だに、「えっ、これって初めて」といった体験をたくさんさせていただいています。

同じ患者さんの、同じケアでも方法が日によって違ったりもするので、「今日はこういうことがあった」というように、一日を通して感じています。

看護でうれしかったこと

患者さんが、自分ができないと諦めていたことを一緒にやり、「うわー、できた」と笑顔を見せてくださった時や、ケアにより日常生活動作や生活の質が少しでも向上し、患者さんからそれを返してもらえると「ああ、すごくうれしいな」という喜びになります。

また、緩和ケアでは、ご家族との関わりがとても大切です。患者さんの気持ちを中心として行うケアに対して、「こうすればいいのに」とジレンマのような、口には出されませんが、ご家族ならではの複雑な思いもあるでしょう。

しかし、患者さんが亡くなられ、ご家族から、「このわがままな患者の言うことを嫌な顔ひとつせず聞いてくれてありがとうございました」、「最後まで、それこそ本人らしく過ごせた」、「ここに来て良かった」という言葉をいただいた時が、ここで働いていて、うれしいと思う瞬間です。



合野さんには、医療専門課程の講師として、後輩への講義もお引き受けいただいています。

めざす看護師像

緩和ケア病棟で14年勤務し、様々な患者さんから日々学ばせていただきました。子育ても一段落したので、これからはその学びを専門的に勉強し、それをまた患者さんに返していけたらいいなと思うようになりました。

また、病院からの後押しもあり、緩和ケアの認定看護師の資格を取得することができました。

患者さんやご家族の苦痛に寄り添うことを大切にしていきたいのはもちろんですが、一緒に働くスタッフの心のケアにも関わり、より良い看護を提供できるよう力になりたいと思っています。



看護師をめざす後輩へのメッセージ

「看護って楽しい」という言葉が適切かどうか分からないのですが、自分が考えたことを実際に行ったり、患者さんと一緒に何かを達成するといった点は、楽しいと思っています。確かに、精神的、肉体的にも辛かったり、時間に追われることもあります。患者さんと関わることで自分自身が成長していくのを感じられる仕事だと思います。

臨地実習など、たいへんなこともあります。でもその先には必ず楽しいことが待っています。いつか、「これをしたから、今があるんだ」と思えるよう、日々がんばってください。

学生のみなさん。現場に出てしまうと、勉強をしたくても、なかなかできません。座学など、今学べることを一生懸命力を入れて吸収してください。